

在宅看護におけるヒーリングタッチの有効性の検証

キーワード：ヒーリング 在宅看護 緩和ケア タッチ 補完代替療法

○中 ルミ¹・天野 博¹・いとうたけひこ²¹ルミナス訪問看護ケアステーション ²和光大学

【研究の目的と背景】ヒーリングタッチは、「NANDA-I 看護診断」に記載されている看護診断を基にプログラム化されている。緩和ケアにおける海外医療事情として、ヒーリングタッチをはじめとする各種代替療法はすでに多くの研究データがあり、国家資格として認められているものや、保険適応にもなり医療チームの中で実践されている。しかし、日本においてはまだ認知度が低く、実践できる看護師も少なくエビデンスが出ていないのが現実である。今回、希望者へヒーリングタッチを実施し、その効果を測定することにより、日本における在宅看護での緩和ケアとしての有効性を検証するのが、本研究の目的である。

【研究方法】1. 研究デザイン：問診票を用いた実態調査。ヒーリングタッチ実施前に、主訴、既往歴、実施後に感想を聴取し、身体・感情・精神・スピリチュアリティの各領域を10段階のフェイススケールにて前後の時点での状態を評価し、その比較を行った。2. データ収集期間：2012年7月～2013年4月 3. 研究対象：被治療者のうち研究協力の同意を得られた14名（男3名、女11名：主訴は肩こり、関節の疼痛、腰痛、頭痛、嘔気、眩暈、鬱症状、視力低下など）【倫理的配慮】研究対象者には研究説明書を提示し、研究の目的とアンケート調査結果の情報を資料とすること、研究発表では個人が特定されないことを説明し研究以外の目的では使用しない事、研究への参加と中止は自由であることを説明し、協力への同意の署名を得た。ヒーリングタッチ・インターナショナルの基準と倫理に沿って実践を行った。

【結果】事前事後得点の差の t 検定を行った。尺度の総合得点の平均点の事前テストから事後テストへの推移を見ると、全体の平均点の変化は $M = 5.08$, $95\%CI [1.28, 8.88]$, $SD = 6.29$ と大きく増加しており、統計的に有意に増加していた ($t(12) = 2.91$, $p = .013$)。効果の大きさは $ES = .81$ であり、プラスの大きな効果量が得られた。また、効果の一般性をみると、点数が増加した人が12人、変化なしが1人、減少した人が0人で（欠損値1人）、全体の12人/13人 = 92%の参加者に尺度総合得点の向上という効果が見られた。

身体尺度の平均点の推移を見ると、全体の平均点の変化は $M = 1.29$, $95\%CI [.29, 2.28]$, $SD = 1.73$ と大きく増加しており、統計的に有意に増加していた ($t(13) = 2.783$,

$p = .016$)。効果の大きさは $ES = .75$ であり、プラスの大きな効果量が得られた。また、効果の一般性をみると、点数が増加した人が11人、変化なしが3人、減少した人が0人で、全体の11人/14人 = 79%の参加者に身体尺度得点の向上という効果が見られた。

感情尺度の平均点の推移を見ると、全体の平均点の変化は $M = 1.36$, $95\%CI [.35, 2.36]$, $SD = 1.74$ と大きく増加しており、統計的に有意に増加していた ($t(13) = 2.924$, $p = .012$)。効果の大きさは $ES = .79$ であり、プラスの大きな効果量が得られた。また、効果の一般性をみると、点数が増加した人が9人、変化なしが5人、減少した人が0人で、全体の9人/14人 = 64%の参加者に感情尺度得点の向上という効果が見られた。

思考尺度の平均点の推移を見ると、全体の平均点の変化は $M = 1.21$, $95\%CI [.28, 2.15]$, $SD = 1.63$ と大きく増加しており、統計的に有意に増加していた ($t(13) = 2.795$, $p = .015$)。効果の大きさは $ES = .74$ であり、プラスの大きな効果量が得られた。また、効果の一般性をみると、点数が増加した人が9人、変化なしが5人、減少した人が0人で、全体の9人/14人 = 64%の参加者に思考尺度得点の向上という効果が見られた。

スピリチュアリティ尺度の平均点の推移を見ると、全体の平均点の変化は $M = .92$, $95\%CI [-.11, 1.95]$, $SD = 1.706$ と増加していたが、統計的には有意差は無かった ($t(12) = 1.951$, $p = .075$)。効果の大きさは $ES = .54$ であり、プラスの中くらいの効果量が得られた。また、効果の一般性をみると、点数が増加した人が9人、変化なしが5人、減少した人が0人で、全体5人/13人 = 38%の参加者にスピリチュアリティ尺度得点の向上という効果が見られた。

【考察】身体面、感情面、思考面での向上が10段階評価による状態の変化によって明らかになった。効果量も全体的に大きく、効果の一般性もスピリチュアリティを除いては全体に大きく、ヒーリングタッチの有効性が示された。また、マイナスの効果がどの下位尺度でも0人であったことから、侵襲性の無さも示唆された。

【結論】本研究でヒーリングタッチの効果と侵襲性のないことを確認できた。ヒーリングタッチの緩和ケアでの介入の普及が期待される。